

「綴りおる、太く編む」

オル太

Jang-Chi

長谷川義朗

川村和秀

梅田豪介

齊藤隆文

井上徹

高木真希人

メグ忍者

ディレクター

栗原一成

小林丈人

田中良太

Exhibition
2012. 12時~20時
7月22日(日)
8月5日(日)
7月23日(月)のみ閉廊

ゲルオルタナ

Alternative space Gell



《オル太って何者?》

日本で接することが出来る文化や、風土に染み付いた感性と記憶よりインスピレーションを得て、集団的表現を展開する8人からなるアーティスト集団。

オル太は集団で巨大インスタレーションやパフォーマンスを発表していることが多いけど、個人的な表現活動も行っている。

集団と個人の関係って、結局どっちかに比重が偏るのでは?

オル太は、集団と個人を相反するものと考えていない。ある環境に両義的に存在するものと考えているのである。

オル太の特徴は、個人それぞれが表現活動を行っていることでオル太という表現集団が形づくられ、また逆に、オル太が集団であるからこそ個人として自律した表現を生むことができる。

それは、世界はひとつではなくばらばらであり、ばらばらだけれどひとつである(食うも食われるのも一緒)というところ。

そして、この架空の人物は、編谷つずるの他に三津亜美と大空流という人物も存在し、計3冊のノートが不規則にリレーしていったのである。

基本的にそう言って構わないが、それは世界の根源的な在り方そのものを体現し、それをかたちにすることであるから、きわめて困難だと言える。

そのことをオル太はどれほど自覚的なのか?

オル太は、オル太という集団としての(利)を守るため、集団が個人に依存するということはない。また個人の(利)を守るため、個人が集団に依存することもない。

そこに生まれた世界の構造は複雑怪奇であるが、生の現実世界を感じとることができた。それは、架空の人物を意識しながらも、個人それぞれが自律した存在になれたからであった。

仮に集団という言葉が共同体という言葉に置き換えても構わないのでは。

集団(共同体)と個人が依存し合えば、その関係性から集団(共同体)も個人も責任を持って決断するという意志が薄れていく。

ではどうすればいいのか?

決断の欠いた共同体では、倫理綱が薄れ、身近で起きている問題を共同体も個人もまるで他人事のように見過ごし、わたしたちの生活の営みは衰退の一途をたどっていく。

みなさんが編谷つずるであり、編谷つずるがみなさんです。

今回の展覧会の主旨はそこにある。

その結果として生まれる世界がわたしたちの営みの原点となり、生きる活力へと移り変わるのである。

共同体で生きる一人一人が責任を持って世界の善悪・正邪の判断を背負い、苦渋の決断をすることで自律した存在となる、その自律した者たちの関係性の結果として生まれる共同体(世界)が必要になってくる。

ちなみに数ヶ月前から、オル太とゲルオルタナで今回の展覧会へと移行していく共作が為されていた。

それは、今回の展覧会「綴りおる、太く編む」を象徴する出来事だったかもしれない。

架空の人物=編谷つずるが一冊のノートに物語を書き綴るとい設定を行い、オル太とゲルオルタナの計11人でノートを不規則にリレーしていき、一人の人物が書いたと思われる物語をつくり上げていった。

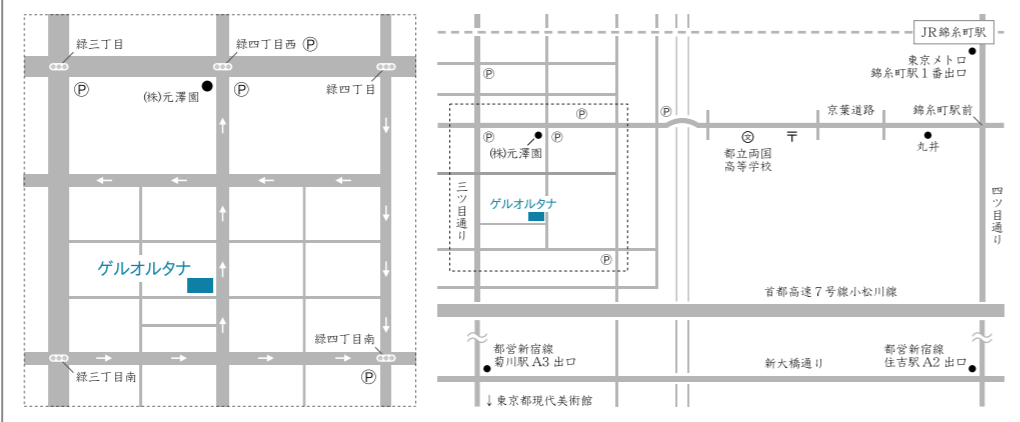
(文責/画家・ゲルオルタナ代表 栗原一成)

ゲルオルタナ

Alternative space Gell

〒130-0021 東京都墨田区緑4-16-8 柏ビル1F
Web : <http://gellalterna.web.fc2.com/>
E-mail : gellalterna@yahoo.co.jp

都営新宿線 菊川駅 A3 出口より徒歩 10分
半蔵門線 錦糸町駅 1番出口より徒歩 10分
JR 錦糸町駅南口より徒歩 10分
東京都現代美術館より 1.5km 徒歩 20分



ゲルオルタナは、アーティスト栗原一成(現多摩美術大学講師)が運営メンバー小林丈人・田中良太と共に日本のアートシーンにおけるオルタナティブスペースの必要性を説くことを目的とし、運営されていくスペースです。また、アーティストが自身の眼と知力の可能性を信じ、能動的に発言していく場所として様々なアーティストがディレクターを務め、企画展・イベント等を行っていきます。

□オープニングレセプション「オル太全員パフォーマンスやる。」7/22(日) 18:00~

◇問い合わせ先 栗原携帯/090-1533-5989

□「梅田豪介 公開制作」7/28(土)、29(日)、30(月)、31(火) 12:00~20:00

◇協力 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト、nap gallery